

令和7年度 小中一貫重点観点および重点指導事項一覧

【国語科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点		◎	
<3校決定> 重点指導事項	・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を育む。		

【社会科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点		◎	
<3校決定> 重点指導事項	・表やグラフを読み取り、複数の資料を関連づけて理解する力を育む。		

【算数・数学科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点			◎
<3校決定> 重点指導事項	・相手の考えや手順に対して、アドバイスを通して対話的に改善し合う力を育てる。		

【理科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点	◎		
<3校決定> 重点指導事項	・観察・実験における技能と、基本的な知識の定着		

【音楽科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点	◎		
<3校決定> 重点指導事項	・継続的な発声練習をとおして、よりよい歌唱表現に必要な技能を身に付ける。 ・段階的な指導を心がけ、9年間かけて技能の向上に努める。		

【図画工作・美術科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点		◎	
<3校決定> 重点指導事項	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、図工・美術の働きなどについて考え、主題を生み出し構想を練ったり、図工・美術・美術文化に対する見方や感じ方を深めさせる。		

【体育・保健体育科】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点	◎		
<3校決定> 重点指導事項	・運動の特性を理解し、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、健康や安全について実践することが出来る力を育てる。		

【技術・家庭科(技術分野)】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点	◎		
<3校決定> 重点指導事項	・安全に注意し、基礎的基本的な技能を身に付ける		

【家庭科・技術・家庭科(家庭分野)】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点	◎		
<3校決定> 重点指導事項	・安全に注意し、基礎的基本的な技能を身に付ける		

【外国語活動・外国語科(英語)】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点		◎	
<3校決定> 重点指導事項	・目的や場面、状況に応じ、外国語を使い理解したり伝えたりする力を育む。		

【特別支援(体育)】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<3校決定> 重点観点			◎
<3校決定> 重点指導事項	・自ら運動に親しみ、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じる力を育む。		

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字の小テストを小学生の範囲から網羅的に取り組むことで漢字の書き取りの基礎が身に付いた。
- ・暗誦、ビブリオバトル、スピーチ、プレゼンなど機会を多く設けることで、人前で表現力豊かに話す力が身に付いた。

(2) 課題

- ・話し合いの機会を多く設けたが、グループの中での合意形成の力を育むことに課題が残った。
- ・振り返りの機会を多く設けたが、既習事項と結びつけながら考える機会を提供することに課題が残った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。	/	/
第2学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。（第1学年時）	/
第3学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。（第2学年時）	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。（第1学年時）

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みに関する問題で目標値をやや下回ったものがあったが、それ以外は同等、または目標値を上回っている。	ほとんどの問題で目標値を上回った。特に文学的な文章の内容を読み取る問題は目標を大きく上回った。	すべての問題において、目標値を大きく上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みに関する問題で目標値をやや下回ったものがあったが、それ以外は同等、または目標値を上回っている。	ほとんどの問題で目標値を上回った。特に文学的な文章の内容を読み取る問題は目標を大きく上回った。	すべての問題において、目標値を大きく上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどすべての問題で目標値を上回った。文法の用言の活用の問題のみ目標値と同等の数値となった。	ほとんどすべての問題で目標値を上回った。特に文学的な文章の内容を読み取る問題は目標を大きく上回った。	すべての問題において、目標値を大きく上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き、漢字の帯学習を継続し、定期的に漢字テストをすることで知識・語彙の定着を図る。文法問題では、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	毎回の授業の中で、必ず他者と意見交流を図る時間を設け、個々の考えの深まりを目指す。また、文章読解後に、自分の考えを明確にして文章にする練習を繰り返し行い、書く力を育む。	探究的な学習を通して、自ら問いを立て、自ら深掘りする活動を通して主体性を引き出す。既習事項との結びつきから理解を深められるよう、前時の振り返りから本時の学習に入る習慣をつける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き、漢字の帯学習を継続し、定期的に漢字テストをすることで知識・語彙の定着を図る。文法問題では、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	毎回の授業の中で、必ず他者と意見交流を図る時間を設け、個々の考えの深まりを目指す。また、文章読解後に、自分の考えを明確にして文章にする練習を繰り返し行い、書く力を育む。	探究的な学習を通して、自ら問いを立て、自ら深掘りする活動を通して主体性を引き出す。また、自分の考えをスピーチにしてまとめる機会を多く作ることで考えを形成する力を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き、漢字の帯学習を継続し、定期的に漢字テストをすることで知識・語彙の定着を図る。文法問題では、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	毎回の授業の中で、必ず他者と意見交流を図る時間を設け、個々の考えの深まりを目指す。時間内に200字～400字の作文を書く練習を繰り返し行うことで、自らの考えを形成し、書く力を身に付ける。	探究的な学習を通して、自ら問いを立て、自ら深掘りする活動を通して主体性を引き出す。既習事項との結びつきから理解を深められるよう、前時の振り返りから本時の学習に入る習慣をつける。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器の活用により、社会科の学習について、興味・関心を高めることができた。
- ・小テストや提出物チェックを定期的に行うことで基礎・基本の定着を促すことができた。
- ・授業内容を工夫し、所定の学習内容を終了したうえで、効果測定に臨むことができた。

(2) 課題

- ・事実や単語の理解はすすんでいる一方で、事実をもとに自分の意見を持ち、他者に説明する力の育成が不十分である。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率は活用が目標値を上回り、基礎は目標値を下回った。	/	/
第2学年	目標値を下回った。地理的分野は目標値を超えたが、歴史的分野に課題が見られる。	区平均は超えているが目標値・全国平均に比べて下回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	目標値を上回った。	標準値を上回っている。 (第2学年時)	標準値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った。特に歴史的分野の近現代の単元で正答率が低かったが、地理的分野では正答率が高かった。歴史的分野の知識の定着が課題である。	目標値を上回った。正答率が目標値と比べて高い問題が多かったが、短文記述の問題の正答率が低かった。理解していることを文章化する能力に課題がみられる。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った。地理的分野はおおむね正答率が高かったが、特に歴史的分野の飛鳥～平安時代の単元に課題が見られる。	目標値と同じだった。記述問題の無回答率は低い。しかし、特に歴史的分野の問題について課題が見られる。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回った。分野別では、地理的分野の地域調査の手法と歴史的分野の江戸時代が目標値に届かなかった。	目標値を上回った。特に歴史的分野の資料読解に基づいて記述する問題が良い。一方で地理的分野の資料読解に基づく問題に課題がある。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを行い、短い期間の中で学習を振り返る機会を作る。また、単語を覚えるだけではなく、その単語の意味や他分野とのつながり、時系列の整理ができる学習を行う。	読み取ったことや自分の意見を文章で書く活動を取り入れ、文章で表現する力を伸ばす。また、話し合う活動を取り入れ、多面的・多角的に思考できるような指導を行う。	授業に対して意欲的に取り組む姿勢はみられる。しかし、日常生活や他分野とのつながりを意識できていないため、時事問題や既習事項とのつながりを意識した指導を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯学習による復習と、重要語句集を配布し小テストを重ねることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。また、その知識を活用する学習を通じて、その知識の持続的な定着を促していく。	資料読解と接続詞の効果的な活用を軸に、資料で読み取れたことを、既習事項を用いて簡潔に整理し、論理的に他者に説明する機会を授業内に多く設定し、思考力・判り力断・表現力の伸長を図る。	自らの学習を振り返り、自己の学習法を調整する機会を設定していく。特に提出物は提出期間を効果的に設定し、個に応じた指導を充実させることで、粘り強さと自己調整力の伸長を目指す。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重要語句集を配布し小テストを重ねることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。また、その知識を活用する学習を通じて、その知識の持続的な定着を促していく。	資料読解と接続詞の効果的な活用を軸に、資料で読み取れたことを、既習事項を用いて簡潔に整理し、論理的に他者に説明する機会を授業内に多く設定し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	自らの学習を振り返り、自己の学習法を調整する機会を設定していく。特に提出物は提出期間を効果的に設定し、個に応じた指導を充実させることで、粘り強さと自己調整力の伸長を目指す。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 単元テスト等の実施により、既習内容の定着をはかることができた。
- ・ 授業の振り返りを通して、学習内容を反芻する機会を設けられた。
- ・ デジタルコンテンツを用いて家庭でも振り返りを行う機会を設けられた。

(2) 課題

- ・ 授業内でICTを活用する場面を設けたが、生徒の習熟度によっては活発な意見交換に至らない場面が見られた。
- ・ 条件の読み取りや式への変換の正確性の向上を目指す。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。	/	/
第2学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。整数の性質やデータから最頻値と中央値を読み取る問題が平均値を下回っていたので、知識が抜けてる生徒が多いと推測する。	目標値を大きく上回っている。各小学校や家庭での取り組みが好結果に繋がったと分析する。また、今後この結果を継続できるよう、授業改善プランを検討する。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。繰り返し取り組むワークの演習や自習用デジタルコンテンツの利用が効果を発揮しているいと分析する。	目標値を大きく上回っている。方程式の立式の正答率が目標値を下回っているが、無回答は少ないため、条件の読み取りや式への変換の正確性の向上を目指す。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。各家庭での取り組みや今での学校での取り組みが好結果に繋がったと分析する。また、今後この結果を継続できるよう、授業改善プランを検討する。	目標値を大きく上回っている。各家庭での取り組みや今での学校での取り組みが好結果に繋がったと分析する。また、今後この結果を継続できるよう、授業改善プランを検討する。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 単元テストを充実させ、知識や技能を確認する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発展的な学習内容にも積極的に取り組みせ、既存の知識の活用の幅を広げさせる。 ● デジタルコンテンツを用いた対話的な活動を行うことで、様々な考え方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークやデジタルコンテンツを活用させ、自ら数学の問題に触れる機会を身につけさせる。 ● デジタルコンテンツを用いた対話的な活動を行うことで、学習意欲を高めさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 演習問題に繰り返し丁寧に取り組む指導と、取り組みに即した評価を徹底し、現状の力をさらに伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 方程式や関数指導において立式する際の指導に重点をおき、幾通りかの式の立て方を共有したり、比較したりして深める工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的に取り組むことで成果が出るのが実感できるテストや、評価の方法を工夫し、自己調整力を育む取り組みに注力する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 型にはまった問題ばかりではなく、考え方の本質的な理解を問う場面を、授業や小テスト、定期考査を通じて意識的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 証明において、根拠として使えることの意味を認識した授業作りと、既習の定理の振り返り学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 証明を含め、考えや根拠を記述させるワークシートやテストを充実させる。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 繰り返しの小テストの結果、知識・技能の向上が見られた。
- ・ 実験を行った結果から、論理的な表現ができるようになった。
- ・ ICT機器を用いて、科学への興味関心を高められた。

(2) 課題

- ・ 基本的な知識・技能の定着を継続する。
- ・ 科学的な思考力や判断力をのばす。
- ・ 科学的な事象・事物への興味関心を引継ぎ高める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	生命・地球の領域で目標値を達成することができた。物質・エネルギーの領域は目標値を3ポイントほど下回った。	/	/
第2学年	どの領域においても目標値を上回ったが、特に生命領域で高く、粒子領域で低かった。標準スコアは昨年度よりも4ポイント上昇した。	達成率は、基礎が低い一方で応用は高く、全体としては全国平均値をわずかに下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	エネルギー、粒子、地球領域において目標値を10ポイント以上、生物領域では約5ポイント上回った。標準スコアは昨年度よりも2ポイント上昇した。	全国平均を上回り、観点別で見ると、目標値よりも5ポイントほど上回っていた。 (第2学年時)	平均を上回ったが、知識・技能で定着していない部分があった。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2ポイントほど下回ったが、全国平均値を1ポイントほど上回った。 選択式の回答で誤答が多かった。	目標値を1ポイントほど上回り、全国平均値を5ポイントほど上回った。 短答、記述ともに目標値を上回った。	/

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値および全国平均値を8ポイントほど上回った。基礎的な内容について、知識の定着が見られた。	目標値を約2ポイント、全国平均値を約5ポイント上回った。記述形式の問題での誤答が多かった。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値および全国平均値を9ポイント上回った。基礎的な内容について、知識の定着が見られた。	目標値、全国平均値を11ポイント上回った。考察の記述を論理的に書くように取り組んだ成果だと思われる。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストを実施し、既習内容の定着をはかる。またテストの解き直しや、演習問題で知識・技能を確実に定着させる。	実験手順や注意事項を理由づけて考えさせ、思考力・判断力をつけさせる。実験考察や授業のまとめなど、自分の言葉で文章を書けるようにする。	ICTを活用して関心をひく工夫をしたり、振り返りシートを用いて疑問などに気づいたりして、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小單元ごとに小テストを実施するとともに、定期考査前の復習と定期考査後のまとめを通じて、既習内容の確実な定着を図る。	基礎的な事項を活用しながら自らの考えを深めるとともに、自分なりの言葉で記述し、発表する場面を増やしていく。	ICTを活用し、データを比較したり、傾向を読みとったりしながら、話し合い活動や教え合う活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストを実施するとともに、テストの解き直しや問題演習を通して、既習内容の確実な定着を図る。	実験の操作や手順の理由を考えさせ、思考力や判断力をのばす。さらに、結果から論理的に考察を書き、自分の考えを表現できるようにする。	ICTを活用しながら関心をもたせる工夫を凝らすとともに、授業に前向きに取り組める雰囲気づくりをする。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・三学年で共通して英問英答や洋楽を帯活動として取り入れ、既習事項に繰り返し触れる機会を提供するとともに、英語学習に対する意欲の向上に繋げることができた。
- ・三学年で共通して定期的に単語テストを実施することにより、生徒の語彙力の定着度を測ることができたとともに、生徒の語彙力を高めることができた

(2) 課題

- ・授業内での英語によるコミュニケーションの機会を増えたものの、自分の意見を英語でアウトプットすることに課題が残った。
- ・ライティングを行う中で、正しい語彙や文法を使いながら正確な英文を書くことに課題が残った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。	/	/
第2学年	正答率（基礎・活用）はおおむね目標値を上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。（第1学年時）	/
第3学年	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。（第2学年時）	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。（第1学年時）

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大幅に上回った。特にリスニングの会話の理解と、ライティングの英文の完成において正答率が高かった。	目標値を大幅に上回った。特にリスニングにおいて正答率が高かった。一方で英文を完成させる問題に関しては課題が見られた。	/

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほぼ目標値は上回ったが、文法事項の疑問文や否定文の作り方はもう一度、復習が必要であると考える。	すべて目標値を上回った。特に、場面に応じて書く英作文や3文以上の英作文では、書こうとする意識が見られた。	/

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全て5ポイント以上上回った。特にリスニングの内容理解と語形・語法・語彙の知識・理解において正答率が高かった。	全て5ポイント以上上回った。さまざまな英文の読み取りや場面に応じて書く英作文は正答率が高いものの改善の余地を残している。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語テストを中心とした語彙指導に力を入れることで、生徒が受信・発信できる語彙力を高める。特に身近なものや日常でよく使用される語彙を中心に身につけさせる。	自分から英語を発信する機会を増やすために、書く活動の時間を増やす。また帯活動として行っているQ&Aの活動やALTを活用した会話テスト等を取り入れ、英語を活用する機会を増やす。	英語に興味関心をもてるよう、会話や英語の歌などを中心とした授業づくりをする。生徒が自発的に学習する仕組みづくりとして、単語テストの練習を奨励する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を授業内で取り入れ、繰り返し復習を行う。また、基本的な文構造や文法事項を理解し、正しく使えるように、注意して文を書くよう指導する。また授業内で、英文を書く練習を行う。	さまざまな場面で適切な英語が使えるように、英作文やスピーキングテストに取り組む。また自分の英語が相手に伝わっているかをペアワークやALTとの対話等で確認しながら、伝える力を高める。	授業中は意欲的に取り組む姿勢が見られるが、予習や復習には、やや課題が残る。今後は授業内容を自分の力にするため、小テストの実施や宿題等で、家庭でも主体的に取り組む姿勢を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項に繰り返し触れる機会を提供し、復習に取り組む。特に、文の語順を理解し、場面に応じて相手に伝わるように正確に英文を書く練習をする。	さまざまな英文から内容を読み取る機会を提供し、必要な情報を早く正確に捉えられるよう取り組む。また、対話の流れに合った英文を相手に伝わるように正確に書く練習を継続的に行う。	英語によるコミュニケーションに主体的に取り組めるよう、英語で自己表現する機会を多く提供する。また、自己の学習状況を振り返らせ、見通しをもった学習を心がけさせる。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に課題に取り組むことができる生徒が増えた。
- ・自分の考えを、その根拠も併せて発言したり書けたりする生徒が増えた。
- ・様々な発声練習を通して生徒の技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・歌うことが好きな生徒は多いが、その中でも得意だと思っている生徒が少ない。
- ・実技テストなどの本番で自分の力が出し切れない生徒が多い。
- ・鑑賞分野の授業の充実

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発声練習に真面目に取り組むフォームが整ってきている。歌唱の技能や知識については習熟度に差が見られる。	想像力が豊かな生徒が多く、それを歌唱表現に生かすことができる生徒も多い。自分の感じたことを書いたり発言したりする力を伸ばしていく必要がある。	音楽が好きな生徒が多く、全ての活動において積極的に取り組む姿勢が見られる。発言もとても多い。また協力して活動する姿勢も見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも真面目に活動に参加する生徒が多い。全体的に歌唱の技能が高い。知識については習熟度に差が見られる。	他の2つの観点に比べ、力が弱い。自分から積極的に歌唱表現を工夫しようとする生徒が少ない。ワークシートへの取り組みは内容が浅い生徒が多い。	歌唱においては、男女とも積極的に協力し活動を行うことができている。鑑賞においては、発言が少なくなる傾向が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも高い意欲で取り組む生徒が多い。また特に発声練習によく取り組み技能が高い生徒が多い。知識についてもよく勉強している様子が見られる。	感受したことを歌唱表現に表すことができる生徒が半分程度である。楽譜から作曲者の意図を感じ取る力が弱い。	自分達で協力したり、アドバイスし合ったりしてパート練習を充実させることができている。鑑賞については発言する生徒が多くないが真面目に活動に取り組む様子が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な発声練習を継続して行くことで、技能を更に伸ばしていく。 知識は楽語の小テストを行ったり様々な活用をさせたりすることで確実な力を身につけさせる。	感じ取ったことを、発言したり、ワークシートに記入したりする活動において、教員が例を示したり、生徒同士の意見を共有したりして、自信をもたせられるような取り組みを増やす。	どの活動においても高い意欲で取り組んでいるため、表現や発言などにおいて、自信をもたせられるような活動を増やし、さらに意欲を高めていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小グループでの活動や教え合い活動を通して、基礎的な技能の向上を図る。 知識は楽語の小テストを行ったり様々な活用をさせたりすることで確実な力を身につけさせる。	歌唱表現の工夫の活動において、表現しやすいポイントを絞り、自ら感じとれるような活動を増やすことで、実体験を通じ表現することに自信をつけさせる。	感じ取ったことを、小グループで自分の意見を共有してから全体で共有するなど、発言しやすい雰囲気作りを心がける。歌唱については高い意欲で取り組んでいるので、さらに自信をつけられるよう声かけをしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能については、個人の技能を合唱のまとまりとして生かすことができるよう、集団の力を高めていけるような活動を増やしていく。知識については、他の音楽的な要素と関わらせて活用できるよう指導を工夫していく。	継続して楽譜から意図を読み取る活動を行い、それを踏まえて歌唱表現の工夫を全体で共有することでイメージの具現化をより明確化していく。	全体的に高い意欲で活動できているので、個人と集団の振り返りの時間を増やし、自分たちで主体的によりより歌唱表現につなげていけるよう指導していく。

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

「表現」タブレットを活用することで、創作活動に意欲的に取り組むことができ、制作時間の確保につなげることができた結果、完成度の高い作品が見られた。

「鑑賞」鑑賞の習慣がついたことで、自分なりの見方や感じ方を言葉で表すことができ、鑑賞の能力が向上した。

(2) 課題

「表現」自らで考え、構想を練る活動の際に、周りからの情報（インターネット等）に頼る傾向がある。タブレット PC を使うことが目的にならないよう、効果的な活用方法などを示す必要がある。

「鑑賞」鑑賞の仕方がパターン化しないよう、さまざまな見方・考え方を広げられるような課題を設定する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。用具の使い方や安全指導を徹底する。	自分なりの発想や構想を大切にさせ、考える時間をできるだけ多く設定し、アイデアスケッチの習慣をつけさせる。	持ち物の準備・話を聞く態度の指導の徹底をし、単元ごとにめあてを明確にして計画的に活動に取り組ませる。板書と電子黒板を効果的に使い分ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年で習得した技法を活用させ、作品制作に取り入れる。技法習得の難しいものは、練習時間を確保し、確実に身につけられるようにする。	自分のアイデアだけでなく、他の生徒の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。	毎授業、活動の振り返りを授業カードに記録させ、単元ごとにめあてを明確にし、見通しを持ちながら活動に取り組ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新しい知識や技能に加え、これまでの既習内容を活用させる。技法練習を繰り返させて、技能を確実に身につけさせて、作品の完成度の向上をめざす。	より表したいイメージに近づけられるよう、さまざまな作例を示しながら深く考えさせる時間を確保する。タブレットを効果的に活用できるようにする。	授業中の机間指導による観察や問いかけの際に、生徒たちのイメージに沿ったアイデアを形にできるように助言をする。進捗状況を確認しながら、意欲的に活動に取り組ませる。

令和7年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ICT 機器を活用することで、自ら課題を見つけ出し、その課題に対する問いを立てる力が育ってきた。情報を集めたり整理したりする中で、自分なりの視点を持って解決方法を考え、試行錯誤しながら取り組む姿勢が見られるようになった。問題解決への意欲や主体的な学びの力が身につけてきている。

(2) 課題

・時代に即して「生成 AI」などを活用して主体的に学ぶ姿勢を高める必要がある。AI を活用して情報収集・整理・分析を行い、最適な解決策を考える活用を増やす必要がある。その際、AI に頼り切らず、自分の意見や判断を加える力を育てることが重要な課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

数値を直接公開することは避けください。
 例えば、教科の観点ごとに、正答率の平均が目標値の関係を記号（△▽等）で表したり、自校の達成率を比較して上昇、下降をポイントで示したりすることは可能です。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<技術分野> 情報収集・整理の方法や情報モラルの理解、ICT 機器の基本操作の力が不足している。 <家庭分野> 栄養や衣生活に関する基本的な知識と ICT による情報検索・活用方法に課題がある。	<技術分野> 日常の不便を発見し、AI の情報をもとに自分なりの改善策を考える力に課題がある。 <家庭分野> 家族の状況やニーズを考慮して提案を構成し、AI の助言をふまえて自分の意見としてまとめる力に課題がある。	<技術分野> 生活をより良くしたいという思いから自ら問いを立て、AI との対話も通じて学びを深める姿勢に課題がある。 <家庭分野> 自分の暮らしや家族への監視から課題を見つけ、意欲的に解決に取り組む姿勢に課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><技術分野> ICT 機器や AI の操作、データ整理・グラフ作成プレゼン資料の作成などの基本技能に課題がある。</p> <p><家庭分野> 移住食に関する情報収集と整理、レポートや発表資料の作成に課題がある。</p>	<p><技術分野> 未来の社会や生活を想像し、生成 AI を活用して多角的に情報を集め、自分の視点で論理的にまとめる力を育てる。</p> <p><家庭分野> 移住食に関する情報収集と整理、レポートや発表資料の作成課題がある。</p>	<p><技術分野> 他者の意見や AI の回答を参考にしつつ、自分の意見をもつ姿勢を育て、消極的になりがちな場面でも意識的に発信する態度に課題がある。</p> <p><家庭分野> 自分の提案が誰かの役にたつという意識をもって課題に取り組むことで消極的な姿勢を改善しようとする態度に課題がある。</p>

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><技術分野> ICT 機器の活用、資料の作成、グループ内での情報共有ツールの使い方に課題がある。</p> <p><家庭分野> 移住食や福祉に関する知識の活用、協働での資料作成や発表準備の技術に課題がある。</p>	<p><技術分野> グループ内で異なる意見を整理し、生成 AI を使って情報を補足・検証しながら、最適な解決策を見つける。</p> <p><家庭分野> 生成 AI を使って社会課題や生活課題を調べ、意見を出し合いながら、一つの提案にまとめる思考力・表現力に課題がある。</p>	<p><技術分野> 役割を持ち、他者と協力しながら課題に取り組む姿勢や、意見の違いを活かしてよりよい成果を目指す姿勢に課題がある。</p> <p><家庭分野> 自分の意見だけでなく、仲間の意見も尊重し、グループとしてより良い成果を出そうとする協働的な態度に課題がある。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><技術分野> ICT の基本操作や情報モラルを丁寧に指導し、安心して使えるようにする。</p> <p><家庭分野> 移住食の基礎知識を身近な体験とつなげて定着させる。ICT 機器を使ってレシピ検索などの簡単な調べ活動も行う。</p>	<p><技術分野> 「なぜこうなっているのか」「もっと便利にするには？」と問いを立てる力を育てる教材・活動を設定する。</p> <p><家庭分野> 自分の生活と関連付けて「どうすればより良くなるか？」を考える小課題を設定し、意見を書かせる練習をする。</p>	<p><技術分野> 生成 AI との対話を通じて興味を広げ、「自分の疑問」を学びの出発点にする経験を増やす。</p> <p><家庭分野> 家族や自分の生活に目を向けるワークを通して、自ら関わりたいと思える課題を見つけやすくする。</p>

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><技術分野> データ整理・発表資料の作り方・簡単なグラフなどの技能を体系的に教える。</p> <p><家庭分野> 栄養・消費生活などの活用できる実生活の知識を、ICTを使って自ら調べたりまとめたりできるようにする。</p>	<p><技術分野> 生成 AI を活用して情報を整理する補助を行い、構成の型（例：意見→理由→具体的）を用意して練習させる。</p> <p><家庭分野> 実際の家庭の状況などと結びつけて、「自分ならどうするか」を明確にさせたいうえで意見を整理させる。</p>	<p><技術分野> 成果発表の機会（クラス内展示や簡単なプレゼン）を設け、学びの「意味」を実感させる。</p> <p><家庭分野> 身近な人のためになるという目的を意識させ、自分の提案に意味があると感じられるような活動構成にする。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><技術分野> 共同作業で必要となる ICT スキル（共同編集・チャットツールなど）の活用法を教える。</p> <p><家庭分野> SDGs や福祉、環境といった社会的テーマの基礎知識を、グループで分担しながら調べる形で学習させる。</p>	<p><技術分野> 複数人のアイデアを比較・統合しながら、最善策を考えるプロセスを、生成 AI で整理・可視化させる。</p> <p><家庭分野> 意見の出し合いだけで終わらず、グループとして「一つの案にまとめる」訓練を AI の支援を借りながら行う。</p>	<p><技術分野> 意見の違いを「ぶつけ合う」から「活かしよう」ことへと価値づけを変えるようなりフレクションや支援を入れる。</p> <p><家庭分野> 自分の役割をもって協働し、貢献実感を得られる設計（例：チーム発表・他クラス交流）を行うことで意欲を高める。</p>

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育分野では、個人・チームの課題に対して考えを深め、具体的な目標や技能の向上に向けて多くの生徒が主体的に授業に取り組むことができた。
- ・互いに教えあい、認めあうことができるようになった。
- ・投力が課題であったが、筋トレの導入や投力指導により全国平均と同レベルに向上した。

(2) 課題

- ・安全に運動する意識、知識、技能の定着を継続し、伸ばす。
- ・基礎的な体力の向上に向けた取り組みを継続する。
- ・保健体育における思考力や判断力を伸ばす。

2 体力テストの結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	体力テストの結果から、上体起こしの平均記録は全国平均をやや上回っている。50m走の記録は5ポイントほど低い。		
第2学年	50m走の記録が全国平均よりも10ポイントほど低い。その他の種目はおおむね全国平均並であった。	体力テストの結果より、反復横跳びの学校平均値は全国平均よりも高いが、50m走は低い。 (第1学年時)	
第3学年	3学年も50m走の記録が全国平均よりも低い。しかし、長座体前屈の記録は3ポイントほど上回っており、日々の柔軟の成果である。	体力テストの結果より、握力、長座体前屈が全国平均よりを上回る結果となり、体力向上が見られた。 (第2学年時)	体力テストの結果より、握力、長座体前屈が全国平均よりも低い傾向であった。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な体力がおおむね付いているが、ボールを扱う技能や普段の生活にない運動に課題がある。	自分自身の工夫したことや課題を言語化することが難しい生徒が多い。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力テストの結果、瞬発力を必要とする種目のポイントが低いことがわかった。前回からの目標であった投力は伸びつつある。	動きや課題を分析し、自分自身で工夫することができる生徒が多い。また男女の隔たりがなく表現できる生徒が多い。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識的理解力が高い。技能は中学校での積み重ねができている生徒が多い。体力も全国平均並であり、授業時の補強運動の成果と考える。	個々の取り組みはできるが、チーム、集団になった時に体育的思考、表現が難しい生徒が多い。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎体力の向上のために授業時の補強運動では様々な運動を取り入れる。各単元では基礎的な技能を定着させる。また保健における基本的な知識を実生活に関連させ、身に付けさせる。	動きや準備、ルールなどの手順や注意事項を理由づけて考えさせ、思考力・判断力をつけさせる。	関心をひくために、運動する楽しさを感じられる工夫をしたり、振り返りシートを用いて疑問などに気づいたりして、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技能を活用しながら、発展的な技能を習得させる。保健においては、将来の自分をイメージし、既習内容を用いて知識の定着を図る。	自らの動きやお手本となる動きを自分なりの言葉で記述、発表する場面を増やしていく。	1年時よりもできるという成功体験を感じられる工夫をしたり、ゲームのレベルを上げたりして、楽しさをより感じられる授業展開をする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を織り交ぜながら、作戦を立てるなど、より競技的な内容を理解させる。保健においては社会の仕組みを理解させ、今後の人生に必要な知識の定着を図る。	チームの動きや連携を考え記述させ、思考力や判断力をのばす。さらに、取り組みの結果から改善点を見つけ、自分の考えを表現・発表できる場面を増やしていく。	授業に前向きに取り組める雰囲気づくりをする。ICTを活用しながら関心をもたせる工夫を凝らすとともに、集団としての運動の力を高める。